

武蔵野市環境啓発施設運営会議（第10回）議事要録

日 時 令和3年6月24日（木）開会 午後6時 閉会 午後8時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員8名、事務局7名

小澤委員長、鈴木副委員長、光田委員、宮坂委員、中西委員、越智委員、塩澤委員、朝生委員

1 議事

施設の貸出について

2 報告事項

- (1) 施設の評価について
- (2) 環境展について
- (3) むさしの環境フェスタについて
- (4) 環境啓発事業費補助金について
- (5) ひろば事業について

3 その他

議事要録（案）について

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
1. 施設の貸出について	
事務局	資料1、施設の貸し出しについて。前回の意見を反映し申請書の名称を修正し、申請の手順を3段階から2段階に変更した。まず、団体個人を登録する。登録した団体が、企画書を提出し、具体的にどうやって施設を借りるのか、ディレクターやコーディネーターと相談する。利用時間や場所を相談しながら決め、貸出の申込という段取りをとる。施設の抽選期間が終わった後は使用したい7日前までは同じように企画を持ち込み、ディレクター、コーディネーターと相談した上で申し込むことができる。すなわち最長7カ月前から、最短で7日前まで申し込むことができる。また、市内外の差として団体の所在地が市内もしくは代表の方が市内在住・在学・在勤であった場合は市内枠として、申し込みを通常より1か月早めることができる。
委員長	今の説明への意見はあるか。

副委員長	<p>使用した後はアンケートではなく利用報告として、例えばどういう環境啓発に役だったのか、参加者の人数や属性、あるいはその企画の特徴など、次の企画のノウハウにつながるような情報を収集するべき。アンケートでは任意性で通り一遍の決まった事しか聞かないような形だが、企画書と対応した事後報告を求めることで、他の団体も事業の方法について参考になる情報がたまっていく。</p>
委員	<p>打ち合わせなど登録した団体が専ら団体の活動としてここを貸し出して活動する、一般の参加者が想定されてない場合の貸し出しは認めることになっていたか。</p>
事務局	<p>その団体の打合せが環境啓発に資することであれば、目的内の利用ということになり、貸出の対象になる。その団体の打合せの内容が、例えば子どもたちの運動会の打ち合わせなどだと、環境啓発の目的から外れてしまい、対象にならない。</p>
委員	<p>登録した団体が打合せをするスペースは、普段自由来館をしている方々がいるスペースと変わらないということか。そこをわざわざその団体だけが借りて占有することがありえるのか。むしろそれは、自由来館と同じように自由に打合せをすればいい話であり、占有しなければいけない理由が特別に無いと、わざわざ貸出してもらう必要はないのではないか。</p>
事務局	<p>事前に企画書を提出して、他の団体との兼ね合いや、打合せ内容が環境啓発に資しているのかで、占有せずにオープンな場で打合せを行う等の相談をしていく。</p>
委員	<p>打ち合わせ等の利用方法であっても基本的に最初から排除はせず、ディレクター、コーディネーターとの打ち合わせの中で調整していくという事か。</p>
事務局	<p>その通り。</p>
委員	<p>団体の登録を行う際に、許可する利用目的を、環境啓発に関わること、環境に関する活動を行う団体の活動であることを明記するのはいかがか。実際にコーディネーター、ディレクターと調整したときに、会議のために貸し出す場合、他の人を排除できる場所はないことを最初から伝えておく必要がある。</p>
事務局	<p>明記する必要がある。ただ、総会のような内部の管理運営のための会議にエコ re ゴートを貸し出すのは馴染まないと考える。</p>
委員	<p>貸し出す側の整理ができていればそれでいい。基本的に排他的に場所を占有して、専ら団体のみの活動をする場としてはエコ re ゴートは適さないと考える。</p>

委員長	ここは何かを生み出してくれる学び合いの場であることを前提に議論を進めてきた。異質なもの同士が互いに学び合って、それぞれの波及効果を狙っていく場。それが進化発展につながるという考え方があった。
委員	登録してもらおう際に、その趣旨を理解してもらおうことが重要になる。
委員	企画ごとに毎回団体の登録が必要になるのか。毎回登録が必要ならば、登録にかかる15日間は長いのではないか。
事務局	団体は1度登録をすれば、2年あるいは3年ごとに、新たに登録しなおす更新の仕組みとなる予定。1度登録すればその期間は新たな登録は必要ない。15日間というのは余裕をもった期間を設けている。
委員	2つある。1つは先の委員の意見から、公開のイベントについては抽選の優先順位を上げ、団体の内部の打合せは優先順位を下げるといった要件を設けることは可能か。もう1つは、サポータールームは貸し出しの対象となるのか。
事務局	借りる時間や場所については、企画書を出した際にディレクター、コーディネーターの調整が入る。参加型の企画に関しては、他の打合せ等と重ならないようなさばき方を検討していくが、両者とも譲れない場合は抽選となることもありうる。サポータールームについては、サポーターの荷物を置くロッカー等もあるため、貸し出すことはできないと考える。
副委員長	館内で開催されている事業のプログラムについては、現在何が行われているのか公開する必要がある。デザイン等にも工夫が必要になる。
事務局	エコreゾートのホームページにカレンダー機能があるため、本日のイベントとして公開する予定。また、入口2か所にある「本日の催し物」の看板にも掲示する予定である。
委員	見学している一般の方も、イベントや団体の活動内容を見ることができるといいか。
事務局	その通り。登録の際も、ディレクター、コーディネーターと話しあい、どのような活動をやっている団体で、エコreゾートをどのように活用したいかを聞き取った上で、よりよい活用方法を模索しながら登録に進めていく。
委員	貸出の際は他の場所を区切るということか。
事務局	基本的には区切ることや、見ることでできない状況は作らない。参加することが難しい事業もあるが、誰もが見られる状態であることを

	重視する。
委員長	実際にやってみた感想としては、音が響く問題がある。また、端で行っていると通行者が見てくれるので、アナウンスして引き付けることが重要。音の問題は、布を垂らすなどのアイデアを募るのはどうか。
事務局	ご意見ありがとうございます。今回、資料には9月からの貸出開始と示したが、コロナ禍の中で9月貸出開始は難しいと考える。開始の時期はまた改めてお示しする。
2. (1) 施設の評価について	
委員長	報告事項について。
事務局	資料2、評価について。前回のアンケートを委員の意見を取り入れた上で修正した。このアンケートの経年変化を見て、評価していくことを想定している。WEB用、来館者用と分かれており、WEB用は業者を選定し武蔵野市在住のモニターを抽出するのと、エコレポートのホームページから回答を募り、100件から200件ほどの回答数を想定している。来館者用は施設利用者にて一定期間回答を求めていく。前回のアンケートから、より詳しくなった部分では、Q2でSDGsの17項目を挙げ、Q3ではSDGsのターゲットから環境分野の内容をピックアップして、関心のある項目を選択するようになっている。この施設がSDGsの達成貢献を目指しているため、評価の軸として行動の変容を追っていきたい意図がある。Q4実践のきっかけには「市役所やエコレポートの展示などから」といった項目を入れて、エコレポートの効果を測っている。Q5ではさらに取り組みたいことを聞いており、経年変化での理想はQ5が減り、Q3の項目が増えていく、そのきっかけがエコレポートである、といったことが見えるとよい。来館者用では、エコレポートに来た平均回数、及び満足度がオリジナルの設問となる。詳細に聞くことで変化がさらに見えることもあるが、10問前後でまとめられればと考える。
委員	Q6環境問題の情報の取得方法は、エコレポートを含めてもよいのではないか。また、100件から200件ほどでは、クロス集計をとっても地区ごとに15件程度ずつしか得られない。来年度はさらに件数をとれるようにしてもらいたい。Q2、Q3、Q5でSDGsの項目を聞いている点は、この設問の回答を経年で見ていくことで、どのような状況に変化しているのかが分かり易くてよいと思う。分析の際にエコレポートの基本理念をSDGsの17項目と照らし合わせて分析すると、評価として効果的である。

委員長	エコ re ゾートは学び合いながら内発的な力をつけて、SDG s の達成に貢献することを目指している。インタビューを加えていく工夫も必要になってくるかもしれない。
委員	エコ re ゾートは緑町にあり、住所の設問は記入しやすい順序に変えるのもよいのではないか。
委員	Q 3 の「上記①から⑱のうち～」といった表記は分かりにくく感じた。
委員	SDG s の 17 項目は環境問題を先に持ってくるのはどうか。
委員長	SDG s の順番は世界的に決まっており、順番を入れ替えたり、また特定の回答に誘導するのは難しい。17 の項目はウエイト付けをしようとするとも難しく、興味関心のある分野として聞くのが妥当である。
2. (2) 環境展について 2. (3) むさしの環境フェスタについて 2. (4) 環境啓発事業費補助金について	
事務局	資料 3 環境展についての報告。気候危機に対する適応策を学ぶパネル展示を中心に行った。また、緑のカーテン事業としてゴーヤ苗の配布を行い、515 苗配布終了した。
事務局	資料 4 来場者アンケートの報告。
委員長	意見に記入してもらえるのはありがたいこと。啓発がお互いの学び合いになって、踏み込んだ議論ができるといい。子どもたちに建物の昔の形の模型を作ってもらい、説明をしてもらえるといい。
事務局	資料 5 むさしの環境フェスタについての報告。今年度のむさしの環境フェスタについては、オンラインと現地開催の両方のイベントを行う予定。資料 6 環境啓発事業費補助金についての報告。
委員長	ページビューを増やす方法など、様々なコツがいる。また、補助金については交付された委員の意見を伺いたい。
委員	任意の団体にも開かれた補助金のため、今後、エコ re ゾートに団体として登録すると企画しやすい。また、ディレクターやコーディネーターによる企画のサポートもあると、より魅力的なものになっていく。少額でも複数の団体が応募できるのはいい仕組みである。
2. (5) ひろば事業について	
委員長	「ひろば利用」について委員からの報告。
委員	ひろば利用試験実施についての経過と予定について。6 月 6 日に小澤先生の広場を行った。また、20 日にはひろば利用を考えるひろばを開催。6 日の広場では基本的に地球温暖化と気候変動の問題を取り

	<p>上げ、基本的なところから紐解き、かつ武蔵野市の取組も紹介し丁寧に解説していただいた。未来につなげる見えない能力を育むのが大事、という話の傍らで熱心に本を読む子どもたちの姿も見受けられた。</p> <p>6月20日のひろばでは、2回の試験実施を踏まえて、ひろば利用をエコreゾートの正式な利用方法とするにはどうしたらいいか、話し合った。報告書の修正を行い、感想を記入できるようにした。参加者アンケートにも感想記入欄を設け、20日のひろばから採用した。これまで3回のアンケート結果の報告。配布数が参加者数を示しており、回収率は各回60%前後。「今回のひろばはいかがでしたか？」の設問についてはほとんどが良かったと感じている。また問2より、内容に関心を持ってくれた人も多い。問3で「ある」と答えた方からは、お茶碗や古着、水循環、うんち教室という回答もあった。</p>
委員長	<p>子どもの健康を考えた際に、うんちの出方が大切かと思い、私が書いた。</p>
委員	<p>住まいに関する質問では、緑町、吉祥寺北町、八幡町が9件、その他の市内が9件と、周辺だけではなく、市内の方の参加が見受けられた。</p> <p>ひろば利用について改めて確認すると、利用方法としてひろば利用を提案している。もともとはコロナ禍で集客を伴う事業を実施できない一方、実際に来館している利用者が多く、その人たちに今まで検討してきた事業を提供できないか、ひろば利用という方法で考えた。予約なしに自由に参加できて、都合に合わせて自由に退席できる、そういった方式を基本としている。「〇〇ひろば」の〇〇の部分にテーマを入れて、そのテーマに関心のある利用者が自由に参加できることを期待して行ってきた。しかし、改めて20日の話し合いでひろば利用の意義について意見交換した際に、当初の、コロナ禍で色んなことができない代わりにひろば利用、という考え方以上の意義があるという見解を得た。1つは個人的な関心事を他の人と共有するという意義。関心事を「個人的な関心」以上のテーマにして開催して、関心のある人が参加する。そしてテーマを介して人と人を繋げるような、共感する仲間や友達を作る仕組みといえる。ポイントなのは、それが事前に登録したり、許可を得たりといったことがなく、気軽に手軽にできるということが重要である。</p> <p>そして、その意義を考えた際に、個々人が持っているモヤモヤの種を発芽させて開花させる、そのプロセスがひろば利用の重要な仕組みになる。モヤモヤの種という個人のモヤモヤを発芽させる。それを個</p>

人のもののままにせず誰かと共有して仲間を得る。仲間を得て取り組むことでその種が花になっていく、というプロセスを経る。そのプロセスの中で、一番左のモヤモヤの種を持ち込む場として、エコ re ゴートの取組がある。これは周辺整備協議会の頃からやった方がいいという提案があり、以前事務局からもぜひやりたい、という意向があった。例えば毎週日曜日の午前中にもやもやカフェを必ず開き、その時間帯は誰でも自分のモヤモヤを持ち込むことができる。以前にも挙げた例だが、母の形見の着物を、着ないけれども捨てることもできない、といったモヤモヤをその場でもらう。そこで必ず聞く人はいて、それなら例えば、裂き折りにしたらどうか？作家さんを紹介しますよ、といった話や、いっそ売ってしまっってはどうか、といった話がでるかもしれない。実際に裂き折りでバッグにしたということになれば、その経験をさらに広場で共有してもらおう。さらにはそこで仲間を得て、自分たちで裂き折りができるようプロジェクト化することができる。貸出利用でのディレクター、コーディネーターの支援、補助金や環境展、環境フェスタの出展などは、そういったプロジェクトを支援する取組といえる。今の公共公益施設は、形がまずあって、それを具体的にプロジェクトにしたいということに対する支援策は結構あったが、逆に言うとそれしかなかった。その手前の段階が非常に大事で、本当に個人的な思いに耳を傾けることから、それを誰かと共有する機会、そのためにひろば利用を設けることに意義があると思う。

しかしひろば利用を正式な利用方法にするには課題が3つある。1つは使用許可の手続きが必要な施設貸出利用とひろば利用の違いは何か。2つめはひろば利用にも、貸出利用のようなサポートが必要な点。3つめは、正式な利用方法になったら、告知や配信を認めていいのではないかという点。

課題1「使用許可の手続きが必要な施設貸出利用とひろば利用の違いは何か」。エコ re ゴートは行政財産なので、地方自治法によって許可が認められている。また、許可する要件は武蔵野市の公有財産管理規則に定められている。まとめると施設貸出はエコ re ゴートの目的を妨げない使用であって、市政の円滑な推進や公益上やむを得ないと認める利用に対して貸出を許可することになる。しかし、ひろば利用は気軽に手軽にできることに意義があり、施設貸出の手続きがない方が望ましい。その論拠を考えるために、自由来館、ひろば利用、施設貸出利用の違いを表にして整理した。それぞれの違いが出てくるの

が、利用形態・参加形態の部分で、自由来館が個別の自由な利用なのに対し、ひろば利用は利用者とかひろばを実施する人が場を設定して、それに対して自由に参加する、となっている。貸出利用では、開催する目的に応じて、参加方法も自由に参加することもあれば、申し込みをして参加させることもある。その狙いとしては、自由来館では自由な利用を通じて環境への関心を向けてもらうこと。ひろば利用では、テーマを介して市民同士の繋がりを促すこと。つまり、自由来館は個人的な利用の中で環境への関心を向けてほしいという狙いがあるが、ひろば利用はその個人利用の少し延長として、テーマを介して市民同士の繋がりを期待するものとなる。貸出利用では、基本的にエコ re ゴートの理念や環境啓発の効果を期待して貸し出しを許可することになる。制度上の位置づけでは、自由来館は行政財産である施設に市民が来館する、貸出利用では施設の用途目的を妨げない限度における利用の許可をしている。それらに対して、ひろば利用は市民がただ来館するだけでなく、市民同士の交流を期待している。ひろば利用の制度上の解釈では、まず、貸出利用は許可を受けたものが基本的に許可要件の範囲内で占有して利用できる。許可を受けた場合は、自由来館における利用よりも優先される。自由来館では、利用しようとする場所は必ずしも占有ではなく、外見上ものづくり工房などは占有しているように見えるが、スタッフに移動を求められれば基本的には移動しなければならないことになる。ではひろば利用はどうか。やはり貸出の許可はされていないので、ひろばとして利用する場所は占有できない。スタッフから場所を変えることを求められたら応じなければいけない。結局のところひろば利用は、基本的には自由来館の延長として考える。だから、貸出の許可は必要なくひろば利用ができると考える。申出書を提出して同意を得て利用する、ということで良いのではないか。

課題2「ひろば利用も、貸出利用のようなサポートが必要ではないか？」ひろば利用が自由来館利用の延長ということになると、以前紹介した「むさしのエコ re ゴートを10倍楽しく利用するためのトリセツ」が適用できることになる。4番目の「利用者同士で教え合い、学び合おう」という箇所から、スタッフに聞くだけではなく利用者同士で聞いたり、教え合ったり、その方法の方が楽しめるということが書いてある。それを実践するためにひろば利用のサポートは、当面はもやもや会議がサポートしていきたい。エコ re ゴートのディレクターに、ひろば利用について申し出てもらい、内容によって事前にもや

	<p>もや会議への相談を持ち掛けたり、当日の運営をもやもや会議のメンバーがサポートしたりということを当初から考えていた。同じ市民が市民をサポートするという形にしたい。エコ re ゴートのもやもや会議は市民が主体的に利用者の立場でより良い利用の場になるように、考えて行動する自主的な集まり。当然そこを考えてやっていく必要がある。</p> <p>課題3「正式なひろば利用になったら、告知や配信を認めてもよいのでは？」現在はエコ re ゴート自体が集客を伴う事業を実施していないので、告知せず当日現場にいる来館者に声がけして参加してもらった。集客を伴うような事業ができるようになったら告知を認めてもらいたい。既に主催事業で配信イベントを行っており、公式アカウントでの配信もお願いしたい。またできれば、アーカイブとして動画を撮っておくだけではなく、配信していくと、ひろば利用が実際どういうものかを分かりやすく伝える意味でもすごく良いと考える。</p> <p>以上の整理を踏まえ、ひろば利用をエコ re ゴートの正式な利用方法にするという提案をしたい。今回は議論の時間がないため、報告のみで、次回以降に検討してもらいたい。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。残念ながら時間のため、次回以降でお願いしたい。</p>